

平成23年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像	歴史と伝統を受け継ぐとともに、先進的なビジネス教育を融合させ、地域社会をリードする人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりをとおして、意欲と適性のある生徒の募集に取り組む。 基礎・基本を重視したきめ細やかな「わかる授業」を推進し、学習意欲を高め、基礎学力の向上に取り組む。 基本的な生活習慣の確立と、生徒の自主的活動の活性化に取り組む。 生徒の進路希望実現に対応した、継続的・体系的な進路指導に取り組む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(3月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	前期募集で募集人員を、100%確保した。今年度から入試が変わるが、継続して入試倍率を確保し、意欲と適性のある志願者を確保することが課題である。	開かれた学校づくりと生徒募集への取組	<ol style="list-style-type: none"> 毎学期の中学校訪問で求める生徒像を周知する。 体験入学、学校説明会等で中学生が求める情報を適宜提供する。 学校や県のHPでの情報発信や熊商ジャーナルの活用で地域との連携を図る。 中学PTAの見学受け入れと出前授業を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 入試の倍率が両学科とも1.1倍を超えたか 参加した中学生の満足度が90%以上か 県ニュースの提供数及びジャーナルの定期的な発行ができたか 中学PTA見学と出前授業の実施回数 	<ol style="list-style-type: none"> 倍率は、商業科1.13倍・情報処理科1.16倍であった。 体験入学が志望校を決めるのに参考になったと答えた生徒は96%であった。 県ニュースは83件掲載し県下トップで、ジャーナルは毎月発行し地域にも回覧した。 PTA見学は2校、出前授業は6中学で10時間実施した。 	A	<p><課題>説明会や体験入学の内容を充実させ、商業高校の魅力をきちんと伝え、意欲と適性のある志願者を継続して確保することが課題である。</p> <p><改善策>○在校生による学校説明を実施し、説得力あるPR活動を行う。○中学校・中学生・保護者・地域に対して、魅力ある情報提供を行う。</p>
2	各種検定試験の合格率は上昇してきている。教科の専門性を強化し学習意欲を高めさせること、家庭との連携を密にし学習習慣を身に付けさせることが課題である。	「わかる授業」の推進と基礎学力の定着	<ol style="list-style-type: none"> 各教科と連携し宿題等を課し家庭学習を奨励する。 基礎学力の定着を図るため、学習週間を設定し、基礎基本の徹底を図る。 検定試験対策等でクラスの枠を越えた指導を行う。 授業研究を行い、わかる授業を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒アンケートで家庭学習する生徒が75%以上か 成績不振者が減少したか 各種検定資格取得者が昨年度を上回ったか 生徒アンケートで「授業がわかる」生徒が75%以上か 	<ol style="list-style-type: none"> アンケートの結果、家庭学習する生徒は70%であった。 1・2学期の不振者人数は昨年度の同期と比べ35名減少している。 全商3種目以上の1級合格者が10名増えて33名になった。 アンケートの結果、理解できると答えた生徒は72%であった。 	A	<p><課題>試験前でも家庭学習しない生徒が昨年度より1%増加した。さらに家庭と連携し、学習習慣を身に付けさせなければならない。</p> <p><改善策>○授業研究を行い全商1級合格を目標に資格取得させる。○PTA活動や面談等を活用し家庭と連携する。</p>
3	基本的な生活習慣の乱れから、遅刻する生徒が増加した。正門キャンペーン活動を工夫するとともに、生徒の自主的活動を活性化することが課題である。	基本的な生活習慣の確立と自主的活動の活性化	<ol style="list-style-type: none"> 生徒と職員が毎学期、定期的に登校キャンペーン等を行う。 遅刻防止キャンペーンで基本的な生活習慣を確立させる。 挨拶・駐輪キャンペーンで良い習慣に取り組む姿勢を育てる。 部活動の成績や成果を掲示板や熊商ジャーナル、HP等で紹介して賞賛と激励をする。 	<ol style="list-style-type: none"> キャンペーンを毎学期6回(各3日)実施できたか 遅刻者が5%減少したか 生徒アンケートで「生活環境が良くなった」と答える生徒が80%以上か 生徒アンケートで「積極的に部活動に参加している」生徒が70%以上か 	<ol style="list-style-type: none"> 毎学期6回、年間で18回(週)実施した。 遅刻指導対象者は昨年度に比べ減少した。 アンケートの結果83%の生徒が落ち着いた雰囲気の中で授業を受けている。 アンケートの結果53%の生徒が積極的に参加している。 	B	<p><課題>遅刻指導対象者は減少したが遅刻数に大差はなかった。遅刻に対する再認識や基本的な生活習慣を定着させる必要がある。</p> <p><改善策>○学校・家庭と共通理解を図り指導を継続的に行うとともに、他分掌と連携し基本的な生活習慣を確立する。</p>
4	進学・就職希望者全員が自分の進路を決定して卒業している。求人数の減少に対応するため、就業エリアを拡大し求人開拓することが課題である。	さらなるキャリア教育の充実と進路希望の実現	<ol style="list-style-type: none"> 保護者・生徒に早めの情報提供を行い進路意識を高める。 分野別進路が「ダ」をさらに充実させ、学年ごとの目標を定め具体的な学習を実施し、勤労観・職業観を養う。 個人カードを利用し個に応じた進路指導を行う。 積極的な求人開拓を行うとともに高大連携を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> 保護者・生徒アンケートによる満足度が85%以上か 生徒アンケートによる満足度が85%以上か 進路情報管理システムの構築と指導室の整備状況 進路決定率は100%か 	<ol style="list-style-type: none"> アンケートの結果から保護者で75%、1・2年生で93%、3年生で96%であった。 進路講演会、進路が「ダ」の満足度は95%の生徒アンケートの結果であった。 進路個人カードを作成し、詳細情報を集約して進路指導に活用した。 就職者は100%で、進学者は99%の決定率である。 	A	<p><課題>求人開拓により117名の就職が内定したが、来年度は就職希望者がさらに増加する。就職・進学とも質の高い進路決定を実現させることが重要である。</p> <p><改善策>○ハローワークとの連携を深め、就業エリアを拡大し求人開拓を行う。○情報提供や「ダ」の充実によりミスマッチのない進路指導を行う。</p>

実施日	平成24年 3月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>積極的な情報発信により、専門高校としての強みが中学生やその保護者に伝わり、倍率が2学科とも1.1倍を超える成果をあげた。意欲と適性のある生徒を更に確保するために、今後、以下の点を検討してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 中学校へ向け、求める生徒像や本校の人材育成の成果などをPRする。 中学生の保護者に、専門高校の強みを直接伝える機会を設ける。 	
<p>成績不振者の減少や全商の検定合格者の増加など、取組の成果があがっている。生徒の学力向上に向け、今後、以下の点を検討してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生徒の自学の習慣づけに向け、家庭学習の充実や読書の推奨、生徒の力による小テストの実施などを検討する。 「わかる授業」の推進に向け、生徒が積極的に参加できる授業を研究する。 	
<p>あいさつや礼儀のしっかりした生徒を育成している。基本的な生活習慣を身に付けさせるため、今後、以下の点を検討してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 保護者と連携した校門での登校指導の実施について、PTAと連携する。 時間、交通ルール、服装規程の遵守に向け、生徒に、集団の中で規律を守ることの大切さを理解させる。 	
<p>求人状況が厳しい中、希望者全員の就職を実現し、進学面でもほとんどの生徒の希望を実現することができた。キャリア教育の更なる充実に向け、今後、以下の点を検討してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 就職や進学について、保護者にも関心を高めてもらえるよう情報提供や連携に努める。 	